

Title	法令
Author(s)	
Citation	經濟論叢 (1931), 32(6): 1050-1064
Issue Date	1931-06-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/130035
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

大正四年六月二十一日第三種郵便物認可 (毎月一回一日發行)

(禁 轉 載)

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 六 第 卷二十三第

行發日一月六年六和昭

論 叢

地方税に於ける貧者過重負擔傾向 . . . 法學博士 神戶 正雄
經濟理論に於ける時間 . . . 文學博士 高田 保馬
統計系列の基礎概念 . . . 經濟學士 蛭川 虎三

說 苑

主觀價值說と貨幣價值論 . . . 經濟學士 柴 田 敬
大都市に於ける所得の集積と分散 . . . 經濟學士 武田長太郎
米の生産と消費との連繫 . . . 經濟學士 谷口 吉彦

雜 錄

大都市の土地の價格 . . . 經濟學博士 汐見 三郎
農業の機械化 . . . 經濟學士 八木芳之助
植民地に對する經濟活動の特質 . . . 經濟學士 金持 一郎
都市公企業の財政的意味 . . . 經濟學士 大谷 政敬

法 令

抵當證券法・重要産業統制法・勞働者災害扶助法・勞働者災害扶助責任保險法・米穀法中改正・
自動車交通事業法

附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題
本誌第三十二卷總目錄

法令

抵當證券法

法律第十五號 (昭和六年三月二十八日)

第一條 土地、建物又ハ地上權ヲ目的トスル抵當權ヲ有スル者ハ其ノ登記ヲ管轄スル登記所ニ抵當證券ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

抵當權ノ目的物ガ數個ノ登記所ノ管轄地ニ散在スルトキハ抵當證券ノ交付ハ其ノ一ノ登記所ニ之ヲ申請スルコトヲ要ス

抵當證券交付ノ申請ハ申請人(代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ代理人)登記所ニ出頭シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ抵當證券ヲ發行スルコトヲ得ズ

一 抵當權ガ根抵當ナルトキ

二 抵當權ニ付本登記ナキトキ

三 債權ノ差押若ハ假差押ノ登記又ハ抵當權ノ處分禁止若

ハ抵當權ヲ他ノ債權ノ擔保ト爲シタル旨ノ登記アルトキ

四 債權又ハ抵當權ニ附シタル解除條件ノ登記アルトキ

五 抵當證券發行ノ特約ナキトキ

第三條 抵當證券ノ交付ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一 申請書

二 抵當權者ノ權利ニ關スル登記簿謄本

三 手形其ノ他ノ債權ニ關スル證書

四 抵當證券發行ノ特約ノ登記ナキトキハ抵當權設定者又

ハ第三取得者及債務者ノ同意書

第三十二卷 一〇五〇 第六號 一四六

五 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面前項第三號ノ證書ナキトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第一條第二項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ登記所ノ管轄ニ屬スル目的物ノ登記簿ノ謄本並ニ其ノ登記所ノ數ニ應ジ申請書ノ副本及附屬書面ノ寫本ヲ提出スルコトヲ要ス

抵當證券ノ交付ヲ申請スルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス

第四條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

一 申請人ノ氏名及住所

二 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ氏名及住所

三 抵當權目的タル土地、建物又ハ地上權ノ表示

四 抵當權設定者及第三取得者ノ氏名及住所

五 抵當權ノ順位及登記ノ年月日

六 不動産登記法第一百七條ニ掲グル事項

七 債務者ノ氏名及住所

八 抵當權、質權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ債權額、

債權者ノ氏名及住所並ニ登記ノ年月日

九 地上權、永小作權、地役權又ハ賃借權ノ登記アルトキ

ハ其ノ權利者ノ氏名及住所並ニ登記ノ年月日

十 登記所ノ表示

十一 申請ノ年月日

第五條 登記官更ハ抵當證券交付ノ申請ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ要ス但シ申請ノ欠缺ガ補正スルコトヲ得ベキモノナル場合ニ於テ申請人が即日之ヲ補正シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 其ノ登記所ノ管轄ニ屬セザルトキ

二 第二條ニ規定スル事由アルトキ
三 申請書ニ記載シタル事項が登記簿ト符合セザルトキ
四 申請人が出頭セザルトキ
五 申請書が方式ニ適合セザルトキ
六 必要ナル書面ヲ提出セザルトキ
七 手数料ヲ納付セザルトキ
第一條第二項ノ申請アリタル場合ニ於テハ登記官吏ハ申請書ノ副本及附屬書面ノ寫本ヲ各管轄登記所ニ送付シ其ノ管轄ニ屬スル目的物ニ付抵當證券ヲ作成スベキ旨ヲ囑託スルコトヲ要ス

第六條 抵當證券交付ノ申請ヲ受理シタルトキハ登記官吏ハ前條第二項ノ規定ニ依ル囑託アリタルトキハ其ノ部分ニ付テハ囑託ヲ受ケタル登記所ノ登記官吏ハ遅滞ナク抵當證券ノ交付ニ付異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ申立ツベキ旨ヲ抵當權設定者、第三取得者、債務者、抵當權又ハ其ノ順位ノ譲渡人及先順位ヲ拋棄シタル者ニ催告スルコトヲ要ス但シ抵當證券ノ發行ヲ妨グル事由アルコトヲ發見シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

囑託ヲ受ケタル登記所ノ登記官吏が抵當證券ノ發行ヲ妨グル事由アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ囑託ヲ爲シタル登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第一項ノ催告ニハ第四條第一號及第三號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要ス
債務者ニ對スル催告ニハ前項ノ事項ノ外第三條第一項第三號ノ證書が手形ナルトキハ其ノ表示及同條第二項ノ規定ニ依ル記載ヲモ記載スルコトヲ要ス

第七條 抵當證券ノ交付ニ關スル異議ハ左ノ理由ニ基クトキニ限り之ヲ申立ツルコトヲ得
一 申請ニ付第二條ニ規定スル事由アルコト
二 債權ノ質入、差押又ハ假差押アリタルコト

法 令

三 催告ニ記載シタル事項が登記簿ノ記載又ハ事實ト符合セザルトコト

四 債務者が抵當權者ニ對シ相殺ヲ以テ對抗シ得ベキ債權ニシテ其ノ辨濟期が抵當權者ノ債權ノ辨濟期以前ニ到來スルモノヲ有スルコト
異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基キ之ヲ申立ツルコトヲ得ズ

異議申立ノ權利ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ズ

第八條 異議ニ關スル裁判ハ抵當證券交付ノ申請ヲ受理シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス
異議ノ申立ヲ受理シタルトキハ登記官吏ハ事件ヲ管轄裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第九條 異議ニ關スル裁判確定シタルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ關係登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第十條 第六條ノ催告ヲ受ケタル者ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル事由ニ付テハ其ノ申立ヲ爲シタルモノニ非ザレバ之ヲ以テ抵當證券ノ善意ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ズ
異議ノ申立ヲ理由ナシトスル裁判確定シタル場合ニ於テハ其ノ申立ヲ爲シタル者ハ二月内ニ訴ヲ提起スルニ非ザレバ申立ヲ爲シタル事由ヲ以テ抵當證券ノ善意ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ズ

前項ノ訴ノ提起アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條 第六條ノ催告ニ指定シタル期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記官吏ハ抵當權ノ目的物が其ノ登記所ノ管轄地ノミニ在ル場合ニハ直ニ、抵當權ノ目的物が數個ノ登記所ノ管轄地ニ散在スル場合ニハ囑託ヲ受ケタル登記所ヨリ抵當證券ノ送付ヲ受ケタル後直ニ抵當證券ヲ交付スルコトヲ

要ス異議ヲ理由ナシトスル裁判確定シタルトキ亦同ジ

第十二條 抵當證券ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ登記官吏記名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

一 證券ノ番號

二 第四條第一號及第三號乃至第九號ニ掲グル事項

三 登記所ノ表示

四 證券作成ノ年月日

囑託ヲ受ケタル登記所ヨリ抵當證券ノ送付ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ其ノ作成ニ係ルモノト一括シ之ニ各證券ハ同一ノ債權ノ爲ニ作成シタルモノナル旨ヲ記載シ且記名捺印スルコトヲ要ス

第十三條 第三條第一項第二號及第三號ノ書面ノ提出アリタル場合ニ於テ抵當證券ヲ交付シタルトキハ登記官吏ハ抵當證券ヲ交付シタル旨ヲ其ノ書面ニ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ申請人ニ還付スルコトヲ要ス其ノ書面中ニ手形アルトキハ其ノ手形ハ爾後効力ヲ有セズ

第十四條 抵當證券ノ發行アリタルトキハ抵當權及債權ノ處分ハ抵當證券ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 抵當證券ノ讓渡ハ裏書ニ依リテ之ヲ爲ス

第十六條 抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ抵當權ノ變更ハ不動産登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ登記ヲ爲シ且抵當證券ノ記載ノ變更ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ數個ノ不動産ニ付抵當權アル場合ニ於テ其ノ一ヲ消滅セシメタルトキ亦同ジ

第十七條 抵當證券ノ記載ノ錯誤又ハ遺漏ガ登記ノ錯誤又ハ遺漏ニ基カザル場合ニ於テハ所持人ハ抵當證券ノ記載ノ變更ヲ申請スルコトヲ得債務者ノ表示ノ變更其ノ他ノ事由ニ

因リ登記ヲ變更又ハ更正シタル爲抵當證券ノ記載ガ登記ト符合セザルニ至リタル場合亦同ジ

第十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外抵當證券ノ記載ノ變更ハ不動産登記法第五十六條、第六十四條、第八十一條又ハ第九十三條ノ規定ニ依ル登記ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條 抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テ登記官吏ガ抵當權ノ變更、消滅又ハ更正ノ登記ヲ完了シタルトキハ抵當證券ノ記載ヲ變更シ之ヲ其ノ所持人ニ還付スルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ規定ハ不動産登記法第八十一條又ハ第九十三條ノ登記ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 抵當證券ノ所持人ハ左ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ交付シタル登記所ニ證券ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

一 證券ヲ汚損シタルトキ

二 證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ除權判決アリタルトキ

第二十二條 抵當證券ノ再交付ニ關シテハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外第三條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 不動産登記法第六十五條ノ場合ニ於テ登記官吏ガ回復登記ノ手續ヲ完了シタルトキハ更ニ抵當證券ヲ作成シ舊證券ノ所持人ニ交付スルコトヲ要ス

第二十四條 民法第三百七十八條及第三百八十一條乃至第三百八十七條ノ規定ハ抵當證券ノ發行アリタル抵當權ニハ之ヲ適用セズ

第二十五條 抵當證券ノ所持人ハ元本ノ一部又ハ利息ノ支拂アリタルトキハ證券ニ其ノ金額及受領ノ年月日ヲ記載シ且之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十六條 債務者ガ利息ノ支拂ヲ怠リタル場合ニ於テ其ノ延滞ガ二年ニ達シタルトキハ元本ノ辨濟期到來シタモノト看做ス但シ抵當證券ニ特約ノ記載アルトキハ其ノ定ニ從フ定期ニ元本ヲ辨濟スベキ場合ニ於テ其ノ延滞ガ二年ニ達シ

タルトキ全元本ニ付亦同ジ

第二十七條 抵當證券ノ所持人ハ元本ノ辨濟期後一月内ニ債務者ニ對シテ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者ガ支拂ヲ爲サザルトキハ抵當證券ノ所持人ハ公證人又ハ執達吏ニ其ノ支拂ナキ旨ノ證明ヲ求ムルコトヲ要ス

第二十八條 抵當證券ニ元本及利息ノ支拂ノ場所ノ記載ナキ場合ニ於テ債務者ノ現時ノ住所ガ知レザルトキハ登記簿ニ記載シタル住所ニ於テ支拂ノ請求ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十九條 第二十七條第一項ノ場合ニ於テ債務者ガ支拂ヲ爲サザルトキハ抵當證券ノ所持人ハ五日內ニ各裏書人ニ對シテ其ノ旨ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ各裏書人ハ抵當證券ト引換ニ其ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第三十條 抵當證券ノ所持人ハ債務者ガ元本ノ支拂ヲ爲サザルトキハ辨濟期ヨリ三月内ニ抵當權ノ目的タル土地、建物又ハ地上權ニ付競賣ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ競賣ノ申立ヲ爲スコト能ハザルトキハ抵當證券ノ所持人ハ期間ノ伸長ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得裏書人全員ノ同意アリタルトキ亦同ジ

第三十一條 抵當證券ノ所持人ハ競賣代金ヲ以テ支拂ヲ受ケザル債權ノ部分ニ付テノ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ第二十七條又ハ前條ニ定メタル手續ヲ爲サザリシトキハ其ノ權利ヲ失フ

第三十二條 抵當權が存在セズ若ハ其ノ目的タル物及權利ノ全部ガ滅失シタルニ因リ競賣ノ申立ヲ爲スコト能ハザルトキ又ハ競賣代金ヲ以テ競賣費用ヲ償フ見込ナキトキハ抵當證券ノ所持人ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ裁判所ノ許可ヲ得テ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ辨濟期ヨリ三月内ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

法 令

第三十條第二項ノ規定ハ前項但書ノ許可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 第三十條第二項及前條ノ裁判ハ抵當權ノ目的物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

許可ヲ與ヘタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 本法ニ依ル裁判ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法第十六條及民事訴訟用印紙法第十六條ノ規定ニ依ル

第三十五條 抵當證券ノ所持人ガ第三十一條又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ其ノ前者ニ對シ償還ノ請求ヲ爲サントスルトキハ競賣代金ヲ受取リタル日又ハ第三十二條ノ許可ヲ得タル日ヨリ五日內ニ各裏書人ニ對シ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三十六條 抵當證券ノ所持人ノ裏書人ニ對スル通知ハ證券ニ記載シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

第三十七條 抵當證券ノ所持人ガ第二十九條第一項又ハ第三十五條ニ規定スル通知ヲ發セザリシトキハ之ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ

第三十八條 抵當證券ノ所持人又ハ償還ヲ爲シタル裏書人ハ左ノ金額中支拂アラザリシモノニ付其ノ前者又ハ債務者ニ對シ償還又ハ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ得

一 元本及支拂ノ請求ヲ爲シタル日迄ノ利息

二 支拂ノ請求ヲ爲シタル日後ノ元本ニ對スル法定利率ニ依ル利息但シ約定利率ガ法定利率ニ超ユルトキハ約定利率ニ依ル利息

三 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル證明書作形ノ費用其ノ他ノ費用

第三十九條 抵當證券ノ所持人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ハ競賣代金ヲ受取リタル日又ハ第三十二條第一項ノ許可

法令

ヲ得タル日ヨリ一年、裏書人ノ其ノ前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四十條 民法第四百七十條、第四百七十二條、商法第二百七十八條第二項、第二百七十九條、第二百八十一條、第四百三十七條、第四百三十八條、第四百四十條、第四百四十一條、第四百五十九條、第四百六十三條、第四百六十四條（第一項但書ヲ除ク）第四百八十三條、第四百八十八條ノ四、第四百九十五條及民法施行法第五十七條ノ規定ハ抵當證券ニ付之ヲ準用ス

第四十一條 不動産登記法第十條、第十二條、第十三條、第二十一條、第四十四條、第四十五條、第七十七條、第一百五十條乃至第一百五十四條第一項、第一百五十五條、第一百五十六條、第一百五十八條及第一百五十九條ノ規定ハ抵當證券ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四項乃至第九項ノ規定ヲ除クノ外本法施行ノ地域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ニ關シ必要ナル規定ハ司法大臣之ヲ定ム

耕地整理法第二條中「登記シタル權利ヲ有スル者」ノ下ニ「（抵當證券ノ發行アリタルトキハ其ノ所持人）ヲ加フ

耕地整理法第二十五條中「第四十四條第二項」ヲ「第四十四條第三項」ニ、「前項」ヲ「第一項」ニ、「前二項」ヲ「第一項又ハ第三項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

同一所有者ニ屬スル數筆ノ土地ノ目的トスル抵當權ニ付抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ供託スベキ第三十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ拂渡金額ノ計算ニ付テハ其ノ數筆ノ土地ヲ一筆ノ土地ト看做ス但シ其ノ土地ニ付當該抵當權以外ノ前項ニ掲タル權利アル場合ニ

第三十二卷 一〇五四 第六號 一五〇

於テ其ノ權利者ノ同意ヲ得サルトキハ此ノ限ニ在ラス
耕地整理法第四十三條第一項中「建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者」ノ次ニ「（抵當證券ノ發行アリタルトキハ其ノ所持人）ヲ加ヘ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ抵當證券ノ所持人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ地方長官ノ認可ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
耕地整理法第四十四條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第二項ノ規定ハ前項本文ノ場合ニ於テ抵當證券ノ所持人ノ同意ニ付之ヲ準用ス

耕地整理法第八十七條中「第四十四條第二項」ヲ「第四十四條第三項」ニ改ム

都市計畫法第十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第十五條ノ二 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラズ建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得

重要産業ノ統制ニ關スル法律

法律第四十號（昭和六年三月三十一日）

第一條 重要ナル産業ヲ營ム者生産又ハ販賣ニ關シ命令ノ定ムル統制協定ヲ爲シタル場合ニ於テ同業者二分ノ一以上ノ加盟アルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ之ヲ變更廢止シタルトキ亦同ジ

前項ノ産業ノ種類ハ統制委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ指定ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル産業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル事項ヲ主務大臣ニ届出ヅベシ

第二條 主務大臣前條ノ統制協定ノ加盟者三分ノ二以上ノ申請アリタル場合ニ於テ當該産業ノ公正ナル利益ヲ保護シ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲テ必要アリト認ムルトキハ統制委員會ノ議ヲ經テ當該統制協定ノ加盟者又ハ其ノ協

定ニ加盟セザル同業者ニ對シテ其ノ協定ノ全部又ハ一部ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三條 主務大臣第一條ノ統制協定ガ公益ニ反シ又ハ當該產業若ハ之ト密接ナル關係ヲ有スル產業ノ公正ナル利益ヲ害スト認ムルトキハ統制委員會ノ議ヲ經テ其ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

第四條 主務大臣第一條ノ統制協定ニ對スル監督上必要アリト認ムルトキハ統制協定ノ加盟者ニ對シ又ハ協定ニ加盟セザル同業者ニシテ第二條ノ規定ニ從ヒ協定ニ依ルベキコトヲ命ゼラレタル者ニ對シ業務ニ關シ檢査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 本法ニ定ムルモノノ外統制委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第一條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第七條 重要ナル產業ヲ營ム者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命令ニ違反シ當該統制協定ニ依ラザルトキ

二 第三條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ命令ニ從ハザルトキ

第八條 第四條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ同條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 重要ナル產業ヲ營ム者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第七條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ル

法 令

ルコトヲ得ズ

第十條 第七條ノ規定ニ依リ重要ナル產業ヲ營ム者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ爲サレタル本法又ハ本法ニ基キテ爲ス處分ニ違反スル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

勞働者災害扶助法

法律第五十四號 (昭和六年四月一日)

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニ之ヲ適用ス

一 土石砂鑛ヲ採取スル事業ニシテ動力若ハ火藥類ヲ用ヒ若ハ地下ニ於テ作業ヲ爲スモノ又ハ常時十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ

二 土木工事又ハ工作用ノ建設、保存、修理、變更若ハ破壊ノ工事ニシテ左ノ一ニ該當スルモノ

(イ) 國、道府縣、市町村又ハ勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ直營工事

(ロ) 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ水道、電氣若ハ瓦斯ノ事業ヲ營ム者ガ其ノ事業ノ爲ニスル直營工事

(ハ) 其ノ他ノ工事ニシテ勅令ノ定ムル規模ノモノ

三 鐵道、軌道若ハ索道ノ運輸事業又ハ一定ノ路線ニ依ル自動車ノ運輸事業

四 船舶ヨリ若ハ船舶ヘノ貨物ノ積卸ノ事業、岸壁、波止場、停車場若ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業又ハ工場、鑛山若ハ土石砂鑛ヲ採取スル場所ニ於ケル貨物積卸ノ事

第三十二卷 一〇五五 第六號 一五一

業ニシテ動力ニ依ル起重機、昇降機其ノ他ノ揚重機ヲ用フルモノ又ハ常時十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ
五 前各號ニ掲グルモノノ外危険ナル事業又ハ衛生上有害ノ虞アル事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ
主務大臣ハ前項ノ規定ニ該當セザル土石砂礫ヲ採取スル事業及岸壁、波止場、停車場又ハ倉庫ニ於ケル貨物取扱ノ事業ニ付地域ヲ限リ本法ヲ適用スルコトヲ得

第二條 事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働者ガ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スベシ

第三條 前條ノ事業主トハ労働者ヲ使用シテ事業ヲ爲ス者ヲ謂フ但シ第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ全部又ハ一部ガ數次ノ請負ニ依リ爲サル場合ニ於テハ元請負人ヲ其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス

前項但書ノ場合ニ於テ元請負人ガ書面ニ依ル契約ヲ以テ下請負人ヲシテ扶助ヲ引受ケシメタルトキハ其ノ下請負人モ亦其ノ請負ヒタル工事ニ付事業主トス此ノ場合ニ於テハ二以上ノ下請負人ヲシテ同一ノ工事ニ付重複シテ扶助ヲ引受ケシムルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ元請負人ガ扶助ノ請求ヲ受ケタルトキハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ニ對シ先ヅ催告スベキ旨ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ下請負人ガ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其ノ行方ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第一條第一項第一號又ハ第四號ノ事業ガ専ラ同一ノ注文者ノ注文ニ依リ爲サルモノナルトキハ其ノ注文者モ亦其ノ事業ニ付事業主トス

前條第三項ノ規定ハ前項ノ注文者ガ扶助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業ノ行ハルル場

所ニ於ケル危害ノ防止又ハ衛生ニ關シ必要ナル事項ヲ事業主又ハ労働者ニ命ズルコトヲ得

第六條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ事業ノ行ハルル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得
第七條 事業主扶助ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ資力アルニ拘ラズ扶助ヲ爲サザルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九條 事業主未成年者若ハ禁治產者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條 本法中事業主ニ關スル罰則ハ國、道府縣、市町村及勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ之ヲ適用セズ

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

労働者災害扶助責任保險法

法律第五十五號 (昭和六年四月一日)

第一條 政府ハ本法ニ依リ労働者災害扶助責任保險ヲ管掌ス
第二條 労働者災害扶助責任保險ニ於テハ労働者災害扶助法、工場法又ハ鑛業法ニ基ク扶助責任ヲ保險スルモノトス扶助責任ノ保險ヲ付スベキ事業ノ種類、保險スベキ扶助責任ノ範圍及保險料率、保險料納付期日其ノ他保險料ニ關ス

ル事項ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ事業主及勅令ノ定ムル事業主ハ政府ト保險契約ヲ締結スベシ但シ同法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元請負人ニ於テ保險契約ヲ締結スベシ

第四條 保險契約者ヲ以テ保險金受取人トス但シ前條但書ノ規定ニ依リ元請負人が保險契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ヲ以テ保險金受取人トス政府ハ前項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第五條 保險契約者が惡意又ハ重大ナル過失ニ依リ保險料算定ノ基礎タル重要ナル事實ヲ告知セズ又ハ其ノ事實ニ付不實ノ告知ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第六條 保險契約者保險料ノ拂込ニ付遲滞シタルトキハ其ノ遲滞期間ニ於テ生ジタル事故ニ對スル保險金ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第七條 保險契約者又ハ保險金受取人が故意若ハ重大ナル過失ニ依リ又ハ勞働者災害扶助法、工場法若ハ鑛業法ニ基ク危害豫防者ハ衛生ニ關スル命令ニ違反シタルニ依リ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第八條 保險金支拂ノ義務及保險料返還ノ義務ハ二年、保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ依リテ消滅ス

第九條 保險契約者又ハ保險金受取人が勞働者災害扶助責任保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルニハ勞働者災害扶助責任保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第十條 勞働者災害扶助責任保險審査會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 本法ニ依ル保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第十二條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ本法ニ依リ扶助責任ノ保險ヲ付シ又ハ付スベキ事業ノ行ハル場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十三條 第三條ノ事業主保險契約ヲ締結セザルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十四條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ニシテ本法施行前ニ著手(請負ニ依ルモノ)ニ付テハ請負契約ノ締結セラレタルモノニ付テハ第三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

米穀法中改正

米穀法中左ノ通改正ス

法律第三十一號 (昭和六年三月三十日)

第二條中「米穀ノ輸入稅ヲ増減若ハ免除シ又ハ其ノ輸入若ハ輸出ヲ制限スルコトヲ得」ヲ「米穀ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除スルコトヲ得」ニ改ム

第三條 米穀ノ輸入又ハ輸出ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條ヲ第六條トシ第五條中「前條」ヲ「第六條」ニ改メ同條ヲ第八條トス

第四條 政府ガ帝國國內ニ於テ第一條ノ規定ニ依リ米穀ノ買入又ハ賣渡ヲ爲スハ米價ガ政府ノ告示シタル最低價格又ハ最高價格ヲ超ニ低落又ハ騰貴シタル場合ニ限ル但シ米穀ノ買

自動車交通事業法

法律第五十二號 (昭和六年四月一日)

第一章 自動車運輸事業

第一條 本法ニ於テ自動車運輸事業トハ一般交通ノ用ニ供スル爲路線ヲ定メ定期ニ自動車ヲ運行シテ旅客又ハ物品ヲ運送スル事業ヲ謂フ

第二條 自動車運輸事業ノ路線ハ一般ノ道路、自動車道又ハ一般通行ノ用ニ供スル通路ニ依ルベシ

第三條 主務大臣ハ命令ヲ以テ自動車運輸事業ニ付路線ニ應ジテ使用スベキ自動車ノ輛數其ノ他事業ノ基準ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車運輸事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第五條 主務大臣ハ自動車運輸事業者ガ免許ノ有効期間満了後仍引續キ其ノ事業ヲ經營センコトヲ申請シタルトキハ當該路線ニ依リ自動車運輸事業ノ不必要其ノ他特別ノ事由ナキ限り期間更新ノ免許ヲ爲スベシ

第六條 自動車運輸事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ運輸開始ノ認可ヲ申請スベシ

第七條 第一項ノ專用自動車道ヲ開設シテ自動車運輸事業ヲ經營スル場合ニ在リテハ工事方法ヲ定メ前項ノ認可申請前主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ

第七條 自動車運輸事業者事業計畫又ハ專用自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

換、貯藏米穀整理ノ爲ニスル賣渡、輸入ヲ目的トスル米穀ノ買入及輸入ヲ目的トスル米穀ノ賣渡ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ米價ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ指定スル市場ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第一項ノ買入又ハ賣渡ノ價格ハ時價ニ準據シテ之ヲ定メ同項但書ノ場合ヲ除クノ外之ヲ告示ス

第五條 前條ノ最低價格又ハ最高價格ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ基礎トシ之ヲ定ム

米穀生産費

家計費

米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格

第七條 第三條ノ規定ニ違反シテ米穀ヲ輸入又ハ輸出シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ米穀ヲ沒收ス若シ其ノ米穀ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ前項ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ内第四條ノ最低價格又ハ最高價格ハ第五條ノ規定ニ拘ラズ米價指數ノ物價指數ニ對スル割合ノ趨勢ニ依リ算出シタル價格ヲ基礎トシ之ヲ定ム

第八條 自動車運輸事業ノ自動車ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

録ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 自動車運輸事業ノ運輸、設備及會計ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車運輸事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 運賃其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ專用自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト

二 路線ヲ延長又ハ變更セシムルコト但シ專用自動車道ノ延長及變更ハ此ノ限ニ在ラズ

三 他ノ運送事業者ト連絡運輸ヲ爲サシムルコト

四 全部又ハ一部ノ路線ヲ共通ニスル數人ノ自動車運輸事業者アル場合ニ共同經營ヲ爲サシムルコト

五 旅客又ハ物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト

六 前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

前項第三號及第四號ノ場合ニ於テ其ノ實施方法又ハ各事業者ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ第一項ノ條件ニ於テ他ノ運送事業者ヨリ事業ノ讓渡又ハ共同經營、會社ノ合併等ヲ求メタルトキハ之ニ應ズベキコトヲ命ジタル場合ニ於ケル實施方法及收得又ハ負擔金額ニ之ヲ準用ス

第十二條 自動車運輸事業ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第十三條 自動車運輸事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

法

會社ノ併合ニ因ル自動車運輸事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

自動車運輸事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

自動車運輸事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車運輸事業經營ノ免許ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部若ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一 法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三 許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四 事業ノ經營不確實又ハ資産狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

六 道路、自動車道又ハ通路ノ狀況ガ自動車ノ運行ニ適セザルニ至リタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ自動車運輸事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 運輸開始ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

二 運輸開始ノ認可ナキトキ

三 事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ運輸開始ノ認可申請期間内（路線ノ全部又ハ一部ニ付專用自動車道ヲ開設スル場合ニ在リテハ工事施行ノ認可申請期間内）ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

四 專用自動車道ニ付工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

五 專用自動車道ニ付工事施行ノ認可ナキトキ

法令

第三十二卷 一〇六〇 第六號 一五六

六 事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ
七 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

第十六條 自動車運輸事業以外ノ自動車ニ依ル運送事業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 自動車道及自動車道事業

第十七條 本法ニ於テ自動車道トハ專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル道路(一般自動車道)及自動車運輸事業者ガ其ノ事業用自動車ノ專用ニ供スル通路(專用自動車道)ヲ謂フ
本法ニ於テ自動車道事業トハ一般自動車道ヲ開設シ有償又ハ無償ニテ之ヲ專ラ自動車ノ一般交通ノ用ニ供スル事業ヲ謂フ

第十八條 自動車道事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第十九條 自動車道事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請スベシ
天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間内ニ認可ヲ申請スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第二十條 自動車道事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ一般自動車道ノ工事ニ著手シ之ヲ竣功セシムベシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ノ伸長ニ之ヲ準用ス

第二十一條 自動車道事業者事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第二十二條 自動車道ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ沿道ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サントスルトキハ已ムヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外豫メ土地ノ占有者ニ其ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

第一項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ因リテ生ジタル損害ハ立入又ハ使用ノ後遲滞ナク事業者ニ於テ之ヲ補償スベシ
前項ノ補償ニ付協議調ハザルトキハ地方長官之ヲ裁定ス
前項ノ規定ニ依ル裁定中補償金額ニ不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日より三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 一般自動車道ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ供用ヲ開始スルコトヲ得ズ

第二十四條 一般自動車道ノ構造、維持、修繕若ハ使用又ハ其ノ交通ノ保全ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ自動車道事業者ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一 使用料金其ノ他ニ關スル事業計畫又ハ一般自動車道ノ工事方法ヲ變更セシムルコト
二 一般自動車道又ハ其ノ附屬物件ノ改善ヲ爲サシムルコト

第二十六條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ公益上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得
第二十七條 自動車道事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ニ屬スル一般自動車道ノ全部又ハ一部ノ供用ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ

第二十八條 自動車道事業ノ讓渡ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

會社ノ合併ニ因リ自動車道事業ノ承繼ニ付テハ合併前主務大臣ノ許可ヲ受クベシ
自動車道事業者死亡シタルトキハ相續人ハ其ノ事業ヲ承繼ス

自動車道事業ヲ營ム會社ノ解散ノ決議又ハ總社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ自動車道事業經營ノ免許ノ全部又ハ一部ヲ取消シ又ハ事業ノ全部又ハ一部ヲ停止セシムルコトヲ得

一 法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

三 主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事ヲ竣功セズ其ノ他許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ヲ故ナク實施セザルトキ

四 事業ノ經營不確實又ハ資産狀態ノ著シキ不良其ノ他ノ爲事業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

五 公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ自動車道事業經營ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可申請期間内ニ認可ヲ申請セザルトキ

二 工事施行ノ認可ナキトキ

三 事業經營ノ免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人ナルトキハ工事施行ノ認可申請期間内ニ會社設立ノ登記ヲ爲サザルトキ

四 一般自動車道ノ供用ノ廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

五 事業ヲ營ム會社解散シタルトキ

第三十一條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者が自動車道ニ接續シ若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ一般ノ道路、自動車道、橋梁、河川、運河、溝渠、鐵道、軌道、索道等ヲ造設セントスルトキハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ニ對シ設備ノ共用

法令

又ハ變更ヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ其ノ實施方法及費用ノ負擔ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ關係主務大臣之ヲ裁定ス自動車道事業者又ハ自動車運輸事業者ノ受ケタル損害ノ補償ニ付亦同ジ

第二十二條 第五項ノ規定ハ前項ノ補償金額ニ之ヲ準用ス

第三十二條 一般自動車道以外ノ自動車ノ通行スル道路ヲ開設シテ使用料金ヲ徵收スル場合ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 共通規定

第三十三條 同一ノ一般自動車道ニ依ル自動車道事業及自動車運輸事業ノ兼營ノ場合ニ於ケル免許、許可及認可ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 主務大臣又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視

總監ヲ含ム、以下同ジ）ハ必要アリト認ムルトキハ自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ヲシテ事業上ノ報告ヲ爲サシメ、書類ヲ提出セシメ又ハ監査員ヲ派遣シテ事業ノ狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

監査員ハ自動車運輸事業者若ハ自動車道事業者又ハ其ノ代表者若ハ其ノ他ノ從業者ニ説明ヲ求メ帳簿、書類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第三十五條 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第三十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付主務大臣又ハ地方長官ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 國ニ於テ經營スル自動車運輸事業及自動車道事業ニ付テハ第一條乃至第三條、第九條（會計ニ關スル規定ヲ除ク）、第十七條、第二十二條、第二十四條及第五十四條乃至第五十七條ノ規定ニ限リ本法ヲ適用ス

國ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營セントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ニ協議ヲ爲スベシ
 國ニ於テ自動車運輸事業ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル自動車運輸事業者ガ其ノ區間ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキ又ハ著シク收益ヲ減少スルニ至リタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業者ノ受ケタル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存路線ノミニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルニ至リタルトキ亦同ジ

第四章 自動車交通事業抵當

第三十八條 自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ全部又ハ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

自動車運輸事業及自動車道事業ノ抵當ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外鐵道抵當法ヲ準用ス但シ同法第一章及第三章中登錄アルハ登記、第四十六條、第六十八條及第六十九條中監督官廳トアルハ登記所、第八十條乃至第八十二條、第八十八條及第九十二條中監督官廳トアルハ裁判所トス

第三十九條 自動車交通事業財團ハ左ニ掲グルモノニシテ同

一 自動車運輸事業者又ハ同一自動車道事業者ニ屬シ且其ノ事業ニ關スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

二 發着場、駐車場、其ノ他自動車運行ノ爲必要ナル沿線土地及其ノ上ニ存スル工物並ニ之ニ屬スル器具機械

三 自動車庫、停留所、貨物庫、給油所、附屬工場、事務所、事務員駐在所其ノ他事業ノ爲必要ナル建物及其ノ敷地並ニ之ニ屬スル器具機械

四 通信又ハ信號ニ要スル工作物及其ノ敷地並ニ之ニ屬ス

ル器具機械

五 前四號ニ掲グル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權及第三者ニ對抗シ得ベキ賃借權並ニ前四號ニ掲グル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 自動車運輸事業ノ爲登錄ヲ受ケタル自動車及其ノ附屬品

七 事業經營ノ爲必要ナル貯藏物品及器具機械

第四十條 前條第一號乃至第三號ニ掲グル不動產ノ何レモガ存セザルトキハ自動車運輸事業ノ爲ニ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得ズ

自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ハ之ノミニ依リテ擔保セララル債務ノ額ガ三萬圓以上ナラザルトキハ之ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニ於テハ自動車運輸事業ニ在リテハ獨立ノ路線ニ付、自動車道事業ニ在リテハ獨立ノ一般自動車道ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 同一事業者ガ自動車運輸事業ト自動車道事業トヲ兼營スル場合ニ於テハ兩事業ニ關スルモノヲ合シテ一個ノ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得但シ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ何レカ一方ニ付自動車交通事業財團ノ設定アリタルハ後此ノ限ニ在ラズ

前項ノ事業者ガ各事業ニ付各別ニ自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニハ一般自動車道ノ敷地其ノ他專ラ自動車道事業ニ關スルモノハ自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ屬スルコトナシ

第四十三條 自動車交通事業財團ノ設定ハ自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス
 自動車交通事業財團登記簿ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シタル

トキハ第三十九條ニ規定スルモノハ當然自動車交通事業財團ニ屬ス但シ第三者ニ對抗シ得ベキ他人ノ權利ノ目的タルモノ又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
自動車交通事業財團ノ設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦前項ニ同ジ

第四十四條 自動車交通事業財團ハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權及抵當權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式會社ニ讓渡スハ此ノ限ニ在ラズ

自動車交通事業財團ニ屬スルモノハ之ヲ讓渡シ又ハ所有權以外ノ權利、差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ズ但シ抵當權者ノ同意ヲ得テ之ヲ讓渡シ又ハ貸付クルハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ自動車交通事業財團ニ屬スルモノヲ讓渡シタルトキハ抵當權ハ其ノモノニ付消滅ス

第四十五條 自動車交通事業財團ヲ目的トスル抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第四十六條 自動車交通事業財團ノ登記ニ付テハ其ノ財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

自動車交通事業財團ノ所有者タル會社ガ本店ヲ一登記所ノ管轄地ヨリ他ノ登記所ノ管轄地ニ移シタル場合ニ於ケル登記手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
左ノ場合ニ於テハ登記所ハ直ニ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

一 第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登記シタルトキ
二 自動車交通事業財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

法 令

第四十七條 自動車交通事業財團ニ關シテハ工場抵當法第四

條、第十二條、第十八條乃至第二十條、第二十二條乃至第四十四條、第四十七條及第四十八條ノ規定ヲ準用ス

本法ニ規定スルモノヲ除クノ外自動車交通事業財團ノ登記ニ關シテハ不動産登記法ヲ準用ス

登記ノ申請書ニハ不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲グル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ

一 自動車交通事業財團ノ設定セラルル事業ノ表示
二 自動車運輸事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル路線ノ表示

三 自動車道事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ之ニ屬スル一般自動車道ノ表示

四 免許ニ有効期間ノ指定アルトキハ其ノ期間
五 免許ニ條件ガ附セラレタルトキハ其ノ條件

第四十八條 第四十二條第一項ノ規定ニ依リテ自動車交通事業財團ヲ設定シタル場合ニ於テ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ノ何レカニ付事業經營ノ免許ノ失效又ハ取消アリタルトキハ抵當權者ハ一事業ニ付自動車交通事業財團ノ設定セラレタル場合ニ準ジ財團ノ全部ニ對シ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

第四十九條 自動車交通事業財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ニ付テハ執行シ得ベキ一定ノ債務名義ヲ要セズ

強制管理ノ開始ハ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ對スル主務大臣ノ監督ヲ妨ゲズ

強制管理ノ管理人ノ任免ニ付テハ裁判所ハ主務大臣ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

強制管理終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ通知スベシ

第五章 罰 則

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處

第三十二卷 一〇六三 第六號 一五九

- ス 一 免許ヲ受ケズシテ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營シタルトキ
- 二 認可ヲ受ケズシテ一般自動車道ノ供用ヲ開始シタルトキ
- 第五十一條 免許ヲ受ケタル者ノ名義ヲ利用シテ自動車運輸事業又ハ自動車道事業ヲ經營シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス名義ヲ利用セシメタル者亦同ジ
- 第五十二條 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 - 一 第五十條ニ規定スル場合ヲ除クノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スベキ事項ヲ之ヲ受ケズシテ爲シタルトキ
 - 二 免許、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキ
 - 三 本法ニ基キテ爲シタル處分又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ
 - 四 第八條ノ規定ニ依ル登録ヲ受ケザル自動車ヲ自動車運輸事業ノ用ニ供シタルトキ又ハ自動車ニ付不實ノ事項ノ登録ヲ申請シタルトキ
 - 五 正當ノ事由ナクシテ一般自動車道ノ使用ヲ拒ミタルトキ
- 六 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ届出又ハ報告ヲ爲スベキ事項ニ付虚偽ノ届出又ハ報告ヲ爲シタルトキ
- 七 監査員ノ監査ヲ妨ゲタルトキ
- 第五十三條 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者が未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 自動車運輸事業者又ハ自動車道事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者が其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免

- ルルコトヲ得ズ
- 會社ノ代表者其ノ他ノ從業者會社ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ會社ニ適用ス
- 第五十四條 自動車道若ハ其ノ標識ヲ損壞シ又ハ其ノ方ヲ以テ自動車道ニ於ケル自動車ノ往來ノ危險ヲ生ゼシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
- 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第五十五條 人ノ現在スル自動車運輸事業ノ自動車ヲ顛覆シ又ハ破壞シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス
- 前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷ニ致シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
- 第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第五十六條 第五十四條ノ罪ヲ犯シ因テ自動車ノ顛覆又ハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同ジ
- 第五十七條 過失ニ因リ第五十四條第一項又ハ第五十五條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ業務ニ從事スル者犯シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 附則
- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 本法施行前自動車運輸事業又ハ自動車道事業ニ該當スル事業ニ付地方長官ノ爲シタル事業經營ノ免許又ハ許可ハ之ヲ本法ニ依ル自動車運輸事業又ハ自動車道事業經營ノ免許ト看做ス
- 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ前項ノ自動車運輸事業ニ付新ニ免許ノ有効期間、運輸開始ノ認可申請期間又ハ事業ノ休止期間ヲ指定スルコトヲ得
- 登録稅法第三條ノ六中「又ハ漁業財團登記簿」ヲ「漁業財團登記簿又ハ自動車交通事業財團登記簿」ニ改ム
- 印紙稅法第四條第一項第一號中「軌道財團」ノ下ニ「、自動車交通事業財團」ヲ加フ